

ふ・れあひ

2018
冬号

Human♥Communication

Vol.30

人と心に響き合う

清恵会グループ広報誌

FREE

ご自由に
お持ちください

特集

通所と訪問

ふたつのリハビリテーション

こころ・カラダ・暮らし

「食べる」を考える



特集

通所と訪問

ふたつのリハビリテーション

介護保険の被保険者が受けられる介護サービスは、通所サービス、訪問サービス、入所サービスなど、さまざまな形のものがあり、利用者は介護の度合いなどに応じて適切なサービスを選択します。今回は、その中通所リハビリテーションと訪問リハビリテーションについてお話ししましょう。

リハビリテーションとは

リハビリテーションの語源は、ラテン語の「re(再び)」+「habilis(適した)」とされ、再び適した状態になることという意味を持ちます。リハビリテーションとは老いや病気、けがなどが原因で生じる心身機能と構造の障害と日常生活の活動の制限、社会生活への参加の制約に対して、多数の専門職が連携し問題の解決を支援する総合的アプローチをいいます。すなわち、本来あるべき状態への回復を支援することと言えます。

けがや病気をしない人はいませんし、年を取らない人もいません。ですから、リハビリを経験する可能性は誰にもあります。特に、超高齢社会の真ただちにあるわが国では、今後ますますリハビリテーションの重要性が高まると考えられます。

心身の機能の維持・回復を図りつつ、実際の生活場面に即したリハビリテーションを提供します。そして利用者が安全に安心してその人らしい在宅生活が継続できるように支援します。

◎対象者

要介護認定(1~5)を受けている人が対象です。ただし、40~64歳までの人は、要介護状態になった原因が「16種類の特定疾病による場合」の認定が必要です。また、要支援認定(1~2)の人は「介護予防訪問リハビリテーション」の対象となり、同等のサービスを利用することができます。

通所リハビリ(デイケア)と通所介護(デイサービス)はどう違う?

同じような名称で、どちらも介護保険法に基づくサービスで、そしてどちらも通所ですから、一般の人が混同されるのも無理はありません。

通所リハビリ(デイケア)は、医師の指示の下でリハビリ中心の専門的な支援を行うことを目的としています。医師の指導の下で行う支援ですから、医学的に管理が必要な方に適しています。

一方、通所介護(デイサービス)は食事や入浴、機能訓練といったサービスを提供し、日常生活や他



3つに大別されるリハビリ療法

リハビリテーションの療法は、理学療法、作業療法、言語聴覚療法の3つに大別されます。ごく簡単にいえば、理学療法は体が動かせるようにすること、作業療法は生活ができるようにすること、言語聴覚療法は話す・聞く・食べるなどに関する問題の改善を目指すものです。そして、医師の指示に基づき、これらのリハビリを施すのがセラピスト(療法士)。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士という専門職です。

通所リハビリと訪問リハビリ

通所リハビリテーションも訪問リハビリテーションも、介護保険が適用される介護サービスの一つです。どちらも、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、セラピストなどの専門職がサポートします。

「通所リハビリテーション」

利用者が病院、診療所、老人保健施設等に通い、主治医の指示に基づいて、理学療法、作業療法その他必要なリハビリテーションを受けることができるものを言います。日帰りで行うリハビリを受ける



送迎バスに乗る利用者の皆さん。

「訪問リハビリテーション」

セラピストが利用者の実際の生活の場に伺い、日常生活の自立や家庭内での役割づくり、社会参加を支援します。また、利用者に合った自宅環境を調整します。



陶器 俊博
三宝病院 介護事業部 副部長補佐
通所リハビリテーション室 室長
訪問リハビリテーション 管理者

者との交流を通じて生きがいを持つて生活をしてもらうことを目的としています。

どちらが良いというのではなく、この点が通所リハビリ（デイケア）と通所介護（デイサービス）との違いであり、利用者の状況に合わせて選択するものです。

**リハビリに注力する
清恵会三宝病院**

清恵会グループには、回復期リハビリテーションや慢性期療養を担う清恵会三宝病院があります。三宝病院では総合リハビリテーションセンターや回復期リハビリテーション病棟などを設置し、清恵会病院をはじめとする急性期病院での治療後に継続してリハビリが必要な患者様をスムーズに受け入れていきます。

さらに、三宝病院を退院した後、ご自宅での生活に支援が必要な方のために清恵会訪問看護ステーションがあり、そして、通所リハビリテーション「さんさんデイケア三宝」と訪問リハビリテーション「さらさら訪問リハ三宝」があります。

このように、1人の患者様の救急・急性期治療から在宅でのリハビリテーションまでを、グループ内で一貫して診ることのできる医療ネットワークが、清恵会グループの

一緒に電車にも乗ります。「電車に乗って買い物に行けた」という成功体験が大切なのです。それは、利用者にとって大きな一歩となります。その一歩一歩が、自己能力を高めていくことにつながります。

このようにセラピストは、利用者の生活に大きく関わることになります。それもまたセラピストの役割です。だから私たちは常に、「私たちにできることは何か」を考え行動しています。

**地域や行政とも連携して
利用者を支える**

私たちは清恵会グループ内だけでなく、地域とも連携を密にし、情報交換を行っています。地域には、いわゆる町の診療所やクリニック、療養施設、福祉施設、地域包括支援センターなどの行政機関等があり、医師や看護師、療法士、ホームヘルパー、ケアマネージャーなど、さまざまな専門職がいます。特にケアマネージャーとは日頃から連絡を取り合い、互いに協力しながら利用者をサポートしています。

たとえ重度な介護状態になったとしても、住み慣れた地域で、住み慣れた家で、できる限り自分らしく暮らしたい。それは、すべての人の願いではないでしょうか。

大きな特色です。

**「ありがたい姿」を目指す——
清恵会の通所リハビリと
訪問リハビリ**

通所リハビリテーション「さんさんデイケア三宝」には理学療法士3名、作業療法士2名、介護職4名、相談員1名が在籍しており、セラピスト5名が訪問リハビリテーション「さらさら訪問リハ三宝」のスタッフを兼務しています。

通所・訪問どちらも、利用者が自宅で自立した日常生活を送ることができるよう支援するのが目的ですが、単にリハビリを行うだけではありません。私たちの真の目的は、利用者お一人お一人の「ありがたい姿」を共に目指すこと。利用者の、こうありたいと思う姿に少しでも近づけるようお手伝いをすることです。例えば、「もう一度、趣味を楽しみたい」、「歩いて買い物に行きたい」、「自分一人でトイレや入浴ができるように



屋外のでこぼした地面をしっかりと歩けるよう、輪投げの輪の上を歩く練習。

それを実現するためには、地域全体の協力体制が必要なのです。



**「ふらつと三寶」で
三寶体操をしませんか**

世界に例を見ないスピードで高齢化が進むわが国では、厚生労働省が「地域包括ケアシステム※」の構築を推進しています。その一環として、2016年5月につくられた地域サロンが堺にもあります。

三寶校区（三寶町5丁）にある文化住宅の1部屋につくられた、懐かしミュージアム「ふらつと三寶」は、社会福祉法人堺福祉会ハートピア堺や堺第1地域包括センターなどが関わって誕生しました。ここは、昭和を伝承する小さな博物館であり、地域の人々

なりたいたい」など、「ありがたい姿」はそれぞれ違います。年齢も、心身の状態も、生活環境もさまざまです。ですから私たちは、まず利用者ご家族の状況、そして思いを詳しくお聞きすることから始めます。その情報やお気持ちも十分に把握し、正確にアセスメント（評価）した上で、利用者にとって最適かつ具体的な支援の方法を導き出し、実践しています。

通所リハビリも訪問リハビリも基本的な考え方は同じであり、訪問の場合も、内容は多様です。一例として、寝床からの起き上がりや歩行など基本動作の訓練、食事・排せつ・入浴・更衣といった日常生活動作の訓練、関節の変形や拘縮および筋力低下の予防と改善、ご家族に対する介助指導、バリアフリーなどの住宅改修や福祉用具購入の際のアドバイスも行います。また、居宅内だけでなく、近所を散歩したり、買い物に同行することもあります。

がゆるくつながれる場所でもあります。おしゃべり茶話会、手芸やクラフト、体操教室などが行われ、高齢者の健康や暮らしの相談にも応じています。

この「ふらつと三寶」の運営に、清恵会三寶病院も協力しており、「さんさんデイケア三寶」のセラピストが出張して、オリジナルの「三寶体操」を指導したり、部屋を飛び出しているウォーキングイベントや地域性を生かした史跡巡り、季節を楽しむお花見、自然を満喫する釣り大会などを企画・実施しています。

※団塊の世代が75歳以上となる2025年をめぐり、重度な要介護状態となつても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供できるケアシステムの構築を目指す取り組み。

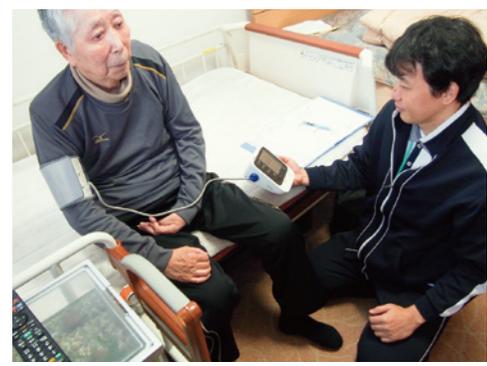


三寶病院のスタッフによる「レッツ三寶体操」。(地域サロン「ふらつと三寶」にて)



訪問リハビリテーション きらきら訪問リハ三宝

その方に合わせたリハビリをご自宅で —Tさんの例—



高齢者用マンションにお住まいのTさんは、左半身がまひしています。当初は脚がのび切って曲がらない状態でしたが、約半年のリハビリを経て、今では膝を曲げて座れるまでになりました。住宅の廊下などで歩行訓練も行っています。

部屋のレイアウトも、セラピストがTさんと相談して決めました。大好きな金魚をいつでも見られるようベッドのそばに水槽を配したり、趣味のスポーツをテレビ観戦する際に楽な姿勢で楽しめるよう配慮しています。

装具を着けるのも、その人の状態に合わせた“コツ”が必要です。セラピストがいないときでもスムーズに装着できるよう、ご本人やご家族に方法をレクチャーします。

リハビリ前の問診・血圧測定

主な内容

- 身体機能の評価と訓練
- 基本動作訓練(起き上がる、立つ、歩くなど)
- 日常生活動作訓練(トイレ、入浴、着替えなど)
- 日常生活関連動作訓練(掃除、洗濯、買い物など)
- 社会参加の支援(地域での体操、趣味など)
- 住環境の設定、福祉用具利用のアドバイス
- 自主訓練の指導
- 介護方法の指導 など



立ち上がる・座る練習

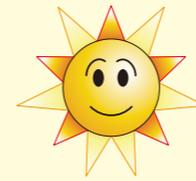


マンションの廊下を利用した歩行訓練



楽しみと暮らしやすさを考慮した室内

利用方法



通所リハビリテーション さんさんデイケア三宝



みんなで体操!

フレイル(高齢者の筋力や精神面の衰え)を予防し、車椅子の人でもできる体操をつくろう! スタッフのそんな思いから生まれた体操です。

各地で行われている高齢者向けの体操を調べ、自分たちなりに改良を重ねながら、約25分の体操が完成。「さんさんデイケア三宝」で毎日実施しています。立ってする人、座ってする人、車椅子に乗ってする人、音楽に合わせて楽しく行う全身運動です。

集団で行うと、今まで座って体操していた人が立ってし始めたり、隅っこでいた人が前に出てきたりと、良い意味での競争意識も生まれてきました。定期的な体力測定でも、筋力アップの効果がはっきりと表れています。

「さんさんデイケア三宝」 1日のスケジュール

- 8:50~10:30 お迎え
体温・血圧・脈拍の測定
※随時、入浴・個別リハビリ
- 10:30~ ストレッチ体操
- 10:40~ 個別活動
- 12:00~ 口腔体操
- 12:20~ 昼食、口腔ケア
- 13:30~ 集団活動
(脳トレ、作業療法活動など)
※随時、入浴・個別リハビリ
- 14:30~ おやつ
- 14:50~ 三宝体操
- 15:40~17:00 お送り



ボランティアの来訪

定期的に来訪し、演奏やダンス、手品などを披露していただきます。演奏に合わせて、一緒に懐メロを合唱したりもします。



作業療法活動

五感を刺激し、達成感や楽しさが感じられる、さまざまなプログラムを実施しています。



ナース・フェイス Nurse Face

私の看護、私の思い



中村 杏里 (写真右)
清恵会三宝病院 4A病棟 看護師

患者さんとともに、 仲間とともに、学びと成長の日々

私が所属している清恵会三宝病院の4A病棟は療養と透析の混合病棟になっていて、リハビリテーションのために入院されて自宅に帰られる方や、施設に入所される方もいれば、透析のために継続して入院される方もいらっしゃいます。急性期とは違い、病態が比較的安定している患者さんが多く、平均80歳代でしょうか、ご高齢の患者さんがほとんどです。ご高齢の患者さんは皮膚が弱いため、たとえ小さな傷でも、やがて大きな床ずれなどにつながることもあり、普段の状態と全身の経過観察がとても大切です。

私たちの業務は、体温や血圧の測定、床ずれの処置などさまざまですが、日々新たな気づきや発見があります。患者さんをより深く理解することが楽しみであり、学びでもあります。認知症の患者さんも入院されており、大変なときもありますが、毎日の違った表情や反応を少しでも理解したいと思っています。

昨年の4月から、初めてプリセプターを務めることになりました。プリセプターとは、新人看護師（プリセプティー）に教育・指導する看護師のことです。自分の思いが相手にうまく伝わらないことや、プリセプターの考えがわからないときもあり、指導の難しさに直面することが多くあります。そのようなときは先輩看護師に相談し、さまざまな指導方法を教えていただきながら、日々関わるように心掛けています。プリセプターが入職してから半年以上が経ちますが、成長している姿を見ると、自分のことのように嬉しく思います。反対に私がプリセプティーから学ぶこともあり、自分の成長にもつながっていると感じます。私自身も勉強の日々ですから、大変ではありますが、やりがいを感じる充実した日々を送っています。

医心 伝心

医の最前線から
第三十回



木村 僚太
清恵会病院 脳神経外科医長

1997年、奈良県立医科大学卒業。奈良県立医科大学脳神経外科入局。2000年、奈良県立医科大学大学院に入学し、脳血管障害の基礎研究を行う。2003年～2004年、ドイツマインツ大学に留学。2005年、博士号取得。その後、多数の医療機関での勤務を経て、2015年から現職。日本脳神経外科学会 脳神経外科専門医・指導医、日本脳卒中学会 脳卒中専門医、日本脳卒中の外科学会 技術指導医、日本脳神経血管内治療学会 脳血管内治療専門医

脳卒中に対して万全の体制で臨む

脳血管障害が専門です

脳神経外科は、脳と神経に関するすべての外科的治療を専門とする診療科です。私は主に脳血管障害を専門として、脳卒中の外科学会の技術指導医として開頭手術を、脳血管内治療学会の専門医としてカテーテル手術を、どちらも専門医として行っています。



脳血管内治療中の木村医師(左)。手にしているのがカテーテル(血管内を通す医療用の細い管)。

24時間365日、
患者様を受け入れ

当院は3年前から脳卒中センターを立ち上げ、脳卒中専用のホットライン(救急隊から専門の担当医師に直接つなぐ電話)を導入し、24時間365日、脳卒中を疑う患者様を受け入れていきます。そして、脳卒中の患者様には脳神経外科医もしくは神経内科医が初期診療から対応し、発症から4時間半以内の脳梗塞であれば積極的にtPA(血栓を溶かす薬)静注療法を行い、発症から8時間以内の脳梗塞であればカテーテル手術を常時行うことができます。また、脳卒中と診断された患者様に対しては脳卒中専用の集中治療室であるSCU(Stroke Care Unit)で急性期治療を行い、予後の改善を図っています。脳卒中は、ある日突然起こる

病気です。突然、麻痺や言語障害などの神経症状を呈した患者様やご家族の衝撃は、計り知れないものがあります。しかし、そのような状況下でも、医師として丁寧かつわかりやすく病状を説明し、納得とご理解を得て治療を進めて行く中で、患者様が少しずつ良くなっていく様子を見るのは、医師としての喜びです。また、外科医として一人でも多くの患者様を救いたいと、いつも願っています。

休日子どもたちの先生に

映画鑑賞が好きなのですが、いつ呼び出されるかわからない生活をしているため、なかなか見に行くことができません。従って休日は家で過ごすことが多く、子どもたちの宿題を手伝ったりしています。

こころ・カラダ・暮らし

「食べる」を 考える

清恵会三宝病院
栄養科 科長
村 知 エ リ

私たちの体には「体内時計」（昼に活動し夜に休息する体のリズム）が備わっており、心と体を管理し体調を整えています。

この体内時計を無視した食生活（朝食ヌキや遅い時間の夜食など）を続けると生活リズムが乱れ、内臓に負担がかかり、体調不良、さらには肥満や糖尿病などの生活習慣病につながる場合もあります。

食事は「バランス良く腹八分目」と言われる通り、「何を、どれだけ食べるか」が大切ですが、同時に「いつ、どのように食べるか」という体のリズムに合わせたタイミングで食べることも重要とされています。

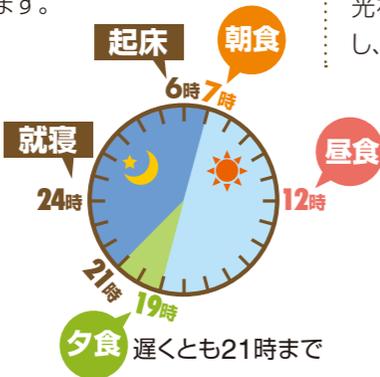
「いつ、どのように食べるか」についてポイントを挙げてみました。

1. 食べる時間と量

①朝・昼・夕すべての食事は、12～14時間以内にとります（夕食～翌朝食まで10時間空けます）。朝食が7時なら夕食は19時が目安です（遅くとも21時まで）。

②朝食：昼食：夕食の量比率は3：4：3
多くなりちな夕食は、就寝2～3時間前までに軽めにとることを心掛けます。

夜遅い時間の夜食は、摂取したエネルギーが消費されず脂肪として蓄えられるため、夕食が21時以降になる場合は17～18時に軽食をとるようにしましょう。夜食の食べ過ぎを防止できます。



2. 朝食は必ず食べる

私たちの脳や内臓は、朝食をとることで眠りから目覚め、体が活動を始めます。また、1日が24時間であるのに対し、多少のズレがあると言われる体内時計は「朝食」と「朝の光を浴びること」で朝だと認識し、毎日リセットされます。

3. 食べる順序と速度

①野菜は炭水化物（ご飯、パン、麺類など）より先に食べます（ベジタブルファースト）。

②食事はゆっくりよく噛んで（1口30回）、20分～30分かかります。上記を心掛けることで、同じ内容の食事でも食後血糖値の上昇がゆるやかになると言われています。



私たちの心と体を支える大切な食事を、もう一度見直してみませんか。

いのち 生命をまもる 医療をつなぐ

地域医療ネットワーク

清恵会病院と共に地域の医療を支え合う
医院・クリニックをご紹介します。

ホームドクターとして、ご家族の健康を守ります

上野内科・小児科クリニック 堺市堺区南三国ヶ丘町1-1-13 ☎072-232-1314

- 診療科目／内科、小児科
- 診療時間／9:00～12:30、16:30～19:00
（小児科は火曜・金曜の午前診療後から予防接種・健診外来あり ※ご予約のみ）
- 休診日／木曜・土曜の午後（小児科は火曜の夜休み）、日曜、祝日、夏季休暇、年末年始
- 開院年／2009年6月（新築移転）
- ホームページ／www.ueno-cl.jp



開院から半世紀—— 地域の健康を見守り続ける

当クリニックは、内科（消化器病専門医）と小児科（小児科専門医）の2診体制で診療にあたっています。

内科は苦痛の少ない経鼻内視鏡検査をはじめ、超音波検査、レントゲン検査、骨密度検査などを行っており、各種疾患に対応しています。小児科は各種予防接種・健診を含め、子育てのご相談など、小児科一般に広く対応しています。

私の父が院長を務めた時代から50年余り、この地で診療を続けています。3世代にわたって通院してくださるご家族もたくさんいらっしゃいます。これからも引き続き地域の皆様のお役に立てるよう、スタッフ一同、日々努力してまいります。そして、4世代、5世代と、お子様やお孫様が元気に成長する姿を見守ることができるよう、誠心誠意、医療に取り組んでいきます。

当クリニックの環境

当クリニックは南海高野線堺東駅の踏切すぐにあるため、交通至便です。また、6台分の駐車場も完備しています。インター

清恵会病院とのかかわり

急に入院が必要となった患者様、状態が悪く今すぐ診てほしい患者様、また時間外など、無理をお願いすることが多いにも関わらず、いつも迅速に対応いただき、本当にお世話になっています。

堺東駅から清恵会病院への送迎バスがあるため、患者様が清恵会病院へ行く際は助かっているようです。



院長の上野洋史先生（前列右）と副院長の上野弥奈先生（前列左）、スタッフの皆さん。

ネットでのご予約も可能です。院内はバリアフリーで、車椅子やベビーカーでのご来院もご不便をお掛けしません。待合は床暖房や空気清浄器を設置しています。

准看護学科38期生戴帽式

清恵会医療専門学院 准看護学科

2017年11月10日（金）に清恵会医療専門学院 准看護学科38期生（39名）の戴帽式が行われました。

一人ずつナースキャップをかぶせてもらい、ナイチンゲールから灯火を頂きました。「ナイチンゲール誓詞」を力強く唱和し、看護の道を歩む決意をしました。その声はエネルギーで、決意の強さを感じました。

戴帽式に向けての練習では、自分たちの思いやアイデアを出し、クラス全員で協力しながら積み重ねてきました。全員で協力しないと一つになれないことを各自が自覚し、お互い助け合うことで感謝への気持ちが生まれ、心を一つにすることができたと思います。

戴帽式当日は、クラスが一丸となり日頃の練習の成果を発揮しました。

これから実習も始まります。

一人一人が看護の責任の重さを自覚し、患者様に誠実に向き合えるように努力をしていきます。支えてくださる方々に感謝するとともに、今後の成長を見守っていただけますようお願いいたします。



学院長のお言葉
「初心を忘れない」と胸に刻む



周りの方への
感謝の気持ちを忘れず、
誠実に向き合う

皆が大好きになりました！
感謝の思いでいっぱいです

患者様をより深く 理解するための取り組み

清恵会三宝病院は、回復期および慢性期の医療を担う複合型病院であり、内科、整形外科、リハビリテーション科、人工透析センター等を設置しています。

3A病棟は回復期リハビリテーションの病棟で、患者様は急性期の治療を終えられ、在宅復帰に向けたリハビリを目的に入院されています。その多くがご高齢の患者様であり、突然、入院生活を余儀なくされるとい



知症を発症したり、あるいは認知症の症状が悪化したり、場合によっては興奮・攻撃状態や睡眠障害を引き起こすこともあります。このような状況になると、本来の治療や看護、リハビリが十分に受けられず、在宅復帰も困難になりかねません。

そのため、今回3A病棟では看護研究として、認知症患者様の言動をしっかりと受け止め、その思いに寄り添い、より安全に療養できる環境づくりを目



的に、「**ひもときシート**※」の活用に取り組みました。患者様の表面上の言動にとらわれず、患者様をよりよく理解するための手法であり、まずは看護者の課題整理から始め（評価的理解）、次に多角的な視点から患者様の情報や事実を整理し（分析的理解）、患者様の視点に立った課題解決の思考（共感的理解）へとステップを踏んでいくものです。

この取り組みは、回復期病棟の新たな課題とさらなる看護の役割を見出す良い機会ともなりました。これからも認知症への理解を深め、回復期リハビリテーション病棟としてより良い環境をつくっていききたいと思えます。

※「ひもときシート」
認知症介護研究・研修東京センターが開発した、認知症ケアをする援助者のためのツール。詳細は同センターの事業が掲載されたサイト「ひもときネット」をご覧ください。
<http://www.denet.gr.jp/retrieve/>

清恵会三宝病院
看護部 3A病棟 看護師

保田奈央 (写真右)
荒川侑梨 (写真左)



受付のあるロビー。2階の手すりにブルーのイルミネーションをしました。

「世界糖尿病デー」の昨年11月14日(火)、清恵会病院のロビーではブルーライトアップと、無料血糖測定、糖尿病に関する教育資料ならびに記念品の配布を行いました。配布には、院長をはじめ当院の糖尿病・生活習慣病センターの医師や看護師も加わりました。来場者数は、血糖測定コーナーに110名、資料配布コーナーに約200名と多くの方々にご参加をいただきました。

「世界糖尿病デー」は、世界で10億人以上が参加する有数の疾患啓発の日です。ランドマークとなる建物などを青色に照らすブルーライトアップは、シンボルマークの「ブルーサークル」にちなんでいます。

Topics

世界糖尿病デー in 清恵会病院

- ① 在宅療養の患者様は、あらかじめ入院が必要になった場合に希望する病院を決め、その病院へ登録します。(かかりつけ医を通じて登録)
- ② 病院は、登録された患者様について、かかりつけ医と3か月に1回以上、患者様の診療情報を交換し、共有します。
- ③ かかりつけ医のご依頼を受けて、患者様の緊急時に対応します。

連携のしくみと流れ

清恵会病院は昨年11月に「在宅療養後方支援病院」の施設基準を取得しました。在宅で療養している患者様とご家族が安心して療養生活を続けられるよう、在宅医療を提供している医療機関(かかりつけ医)と連携し、患者様の緊急時には24時間体制で受け入れを行います。

在宅医療に尽力する地域の先生方にも、患者様にも、一層頼りにしていただけるよう努めてまいります。

Topics

清恵会病院は「在宅療養後方支援病院」となりました



神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 医長 今村博敏先生



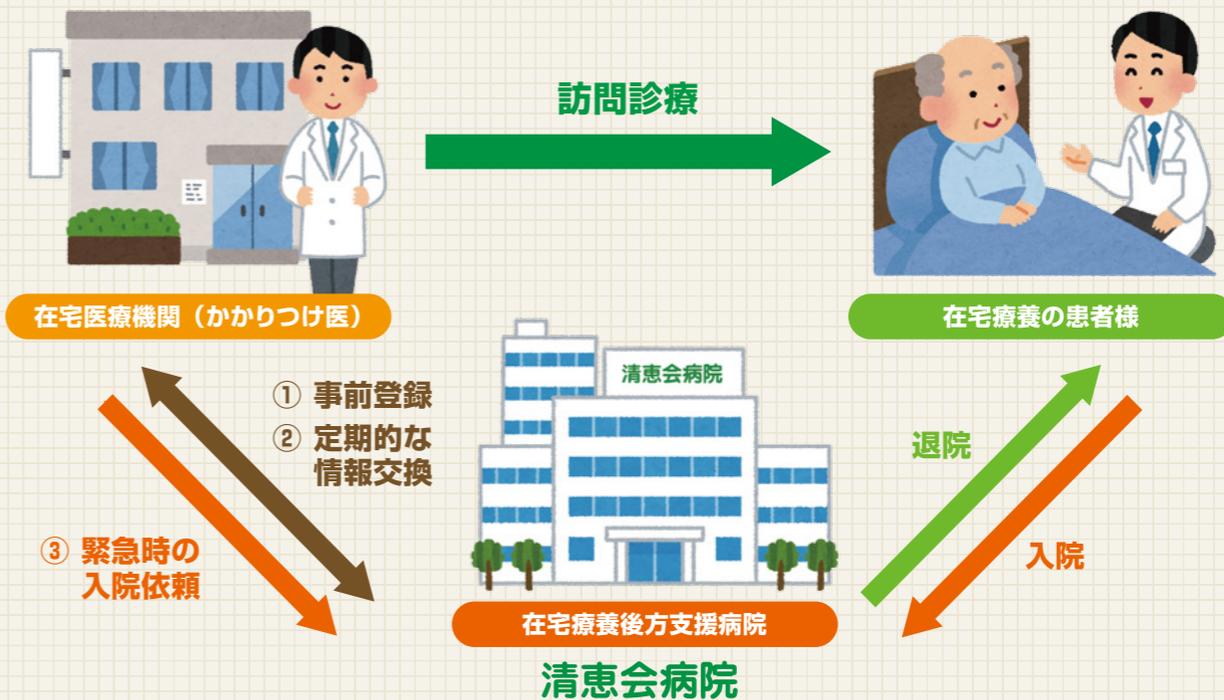
清恵会病院では月1回ERカンファレンスを開いています。ERカンファレンスとは、当院の救急医療の水準を向上させるため、医師や看護師をはじめ救急医療に関わる全ての医療職種が参加する勉強会です。

昨年11月13日(月)のERカンファレンスは、当院脳卒中センターで脳血管内治療を担当する木村院長のセッティングで、神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科 医長の今村博敏先生をお招きし、「エビデンス時代の血栓回収療法」(最良の結果を得るために)と題し、脳梗塞の超急性期脳血管内治療について講演いただきました。アメリカの研修病院や自院での取り組みを症例や治療成績も交えながらお話しくださいました。

貴重な機会のため、日頃、脳卒中を発症したと疑われる患者様をご紹介いただいている近隣病院にも呼びかけ、多くの関係職の方がご参加くださいました。質疑応答では、医師や放射線技師、看護師が質問し、実際的で大変勉強になるカンファレンスとなりました。

Topics

講師をお招きして ERカンファレンスを行いました



清恵会グループのご紹介

清恵会病院

急性期機能病院

〒590-0064 堺市堺区南安井町1丁目1番1号

法人本部

☎ 072-223-8199(代)

清恵会訪問看護ステーション

訪問看護・
訪問リハビリテーション

〒590-0065 堺市堺区永代町2丁目3番9号

☎ 072-232-6074

清恵会向陵クリニック

人工透析外来

〒590-0024 堺市堺区向陵中町6丁目2番11号

☎ 072-257-3131

清恵会三宝病院

複合型慢性期機能病院

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁目4番地の1

☎ 072-226-8131(代)

さんさんデイケア三宝

通所リハビリテーション

〒590-0903 堺市堺区松屋町1丁目4番地の1

きらきら訪問リハ三宝

訪問リハビリテーション

清恵会三宝病院 介護事業部

☎ 072-225-0066

清恵会医療専門学院

看護師・准看護師養成校

〒591-8031 堺市北区百舌鳥梅北町2丁目83番地

☎ 072-259-3901

清恵会第二医療専門学院

理学療法士・
診療放射線技師養成校

〒590-0026 堺市堺区向陵西町4丁目5番9号

☎ 072-222-6226

清恵会グループの
WEBサイトもご覧ください



<http://seikeikai.or.jp/>

清恵会

検索

患者様送迎 3ルートで運行中

清恵会病院および清恵会三宝病院へご来院・ご入院される患者様やご家族のために、3つのルートでバスを運行しております。ぜひご利用ください。

(時刻表は各病院またはホームページ等でご確認ください。)

※ご注意 車両がリフト付きではないこと、および走行中の安全確保が行えないため、車椅子でのご利用はご遠慮いただいております。ご了承の程お願い申し上げます。

